

ATEM Newsletter

ATEM公式サイト <http://www.atem.org/>

January 2019

No. 35

全国大会特集号

発行：映像メディア英語教育学会事務局
(旧映画英語教育学会)
住所：〒169-0075
東京都新宿区高田馬場4-3-12
アルク高田馬場4F
TEL：03-3365-0182
FAX：03-3360-6364
E-mail：office@atem.org
郵便振替：00820-3-1477

映像メディア英語教育学会 / The Association for Teaching English through Multimedia

■新会長挨拶

ATEM President
Hitoshi YOKOYAMA
(Kyoto Women's University)



横山 仁視 (京都女子大学)

平素は本学会の諸活動へのご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。この度、先の10月27日に行われました、第24回全国大会総会での承認を受け、ATEM(映像メディア英語教育学会)の第6代会長に就任することになりました西日本支部の横山でございます。大変名誉なことであると同時に、身を引き締め、学会の発展に少しでも貢献できるよう精進する覚悟でございますので、会員の皆様におかれましては、これまでも増して一層の学会運営へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

新組織をもってスタートするに際し、まずは前会長の倉田誠先生(京都外国語大学)、前副会長の塚越博史先生(北海道医療大学、ジャーナル担当)、前専務理事の松田愛子先生(翻訳者、広報担当)、前専務理事の新田晴彦先生(専修大学、会員管理担当)の4人の先生方に感謝の念をあらわしたいと思います。長年に渡り学会の運営にご尽力され、今日のATEMの礎を築いてこられました。ATEM全会員を代表し、心より感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。本当にお疲れ様でございました。

新組織は次の人事体制をもって学会運営にあたります。新しく3人の専務理事を迎え、一致協力して学会運営の軌取りにあたりたいと思います。

会長 横山仁視(京都女子大学)

副会長 井村誠(大阪工業大学)

専務理事

真下富雄((株)広真アド:事務局)

藤枝善之(京都外国語大学・短期大学:大会担当)

井村 誠(大阪工業大学:国際交流担当)

足利俊彦(北海道医療大学:ジャーナル担当)

秋好礼子(福岡大学:広報担当)

嘉来純一(早稲田大学本庄高等学院:会員管理担当)

巳波義典(京都外国語大学:ICT担当)

今後の学会活動の方向性を会員の皆様にお伝えするにあたり、特にお二人の歴代会長の実績を抜きにして語ることはできません。すなわち、第4代会長の角山照彦先生(広島国際大学)と第5代会長の倉田誠先生(京都外国語大学)は、ATEMを学会として盤石な地位に築きあげていくため、数々の改革を積極的に推進・実行していただきました。こうしたお二人の学会運営に対する献身的な取り組みがあったからこそ、今日のATEMがあると言っても過言ではありません。新生ATEMの最大の任務は、この改革の流れを一層加速させ、学会として「ATEM(映像メディア英語教育学会)」(平成30年4月1日より改名)の社会的認知を獲得し、結果的に会員数を増やすことにあります。そのため、会員の皆様には主に次の目標を達成するべく、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。

1. 全国大会・支部大会の活性化と会員の積極的な参加
2. 支部大会における「支部交流枠発表」の設置、及び、他支部会員発表の促進
3. 韓国の姉妹団体STEMとの共同発表など、新たな学術交流の促進
4. SIG(Special Interest Group)の設立による支部の垣根を越えた研究・教育活動の促進
5. IT時代に即した学会活動広報戦略の強化
6. 賛助会員との連携によるテキスト企画、雑誌へのコラム投稿などの機会拡大

学会運営には会員一人一人の能動的な関わりが何よりも大切であることは言うまでもありません。各会員が「映像メディア」を活用して何ができるか、大袈裟であるかもしれませんが、汎用性のある研究・教育活動をATEMが提言していくという積極的な気持ちを大切にしてください。

最後に、横山は各支部大会への積極的な参加を通じて広く会員の皆様との交流の場を大切にしたいと考えています。その節はどうぞよろしくお願い申し上げます。



第24回全国大会にて 左から新会長・横山先生、前会長・倉田先生

==== 全国大会報告 ====

第24回 ATEM (映像メディア英語教育学会) 全国大会

The 24th ATEM National Convention

「映像メディア英語教育」の可能性を探る

Exploring "Teaching English through Multimedia"

2018年10月27日(土) 於: 京都外国語大学

■特別講演

How to Make "Zen Presentations" through
Multimedia~シンプルで力強いプレゼンの作り方

Garr Reynolds (Kyoto University of Foreign Studies)



この特別講演で、Reynolds 先生は、プレゼンテーションにおけるビジュアルメッセージは、(1) 注意を引く、(2) 理解できる、(3) 記憶に残る、(4) 行動につながる、という要素が必要であるという極意を、分かりやすく解説された。また、コンピューターをオフにして紙とペンで考えるという自身のプレゼン作成のスタイルや、シンプルで効果的な画像を利用すること、自分の周りからアイデアを取り込むことが重要で、デザインの力によって魅力的な発表をしようとの提言もあった。

魅力的な発表をするには、プレゼンター自身ではなく、聴衆にとって面白い内容を盛り込まなければならない。スライドに情報を詰め込んでしまいがちだが、それでは逆に伝えたいメッセージが埋もれてしまうため、無駄な情報を省き、空きスペースを活かすのが基本との解説では、シンプルさ、空白、コントラスト、焦点などを意識した様々なスライドの例証があり、会場の参加者は真剣に耳を傾けていた。(藤枝 善之)

■STEM 特別発表

A Walk Through *The Walking Dead*: An
assessment of student responses to *The Walking
Dead*

Kevin T. Were (Kookmin University)

学習者のスピーキング能力を適切に評価することは非常に難しい。あらかじめ用意されたスクリプトを音読させるだけでは、表層的な流暢さ (oral fluency) は測れても、談話構築力や語用論的能力、社会言語能力などを含めたコミュニケーション能力 (communicative competence)



を測ることはできない。しかしまた、アカデミックなトピックに関する口頭要約やプレゼンテーションなどのタスクをさせるには、レベル的にそぐわないという実情もある。Were 先生の授業実践では、*The Walking Dead* (1995) の 1 シーンを視聴させた後、その場面に関して価値判断を含む主張と問い (*The Walking Dead* is just one narrow escape after another. After the first few times it gets predictable and boring. If you agree, why then do you think this series is so popular? If you disagree, explain why.) を与え、3、4名のグループで各自意見を述べた後、質疑応答をするというタスクを課した。学生の発言は、録音の後、文字起こしを行い、定量的な分析として音声解析ソフト Praat (<http://www.fon.hum.uva.nl/praat/>) を用いた fluency 分析、コーパス解析ソフト Lextutor (<https://www.lexutor.ca/>) を用いた語彙分析を行うとともに、音声データは delivery の面から、スクリプトは topic development や discourse structure の面から質的に分析して、総合的に評価を与えている。多角的でバランスの取れた評価であるといえる。実際にここまでの精緻な評価を行うことは難しい面もあるが、方法論として、非常に参考になる発表であった。(井村 誠)

お知らせ

第25回 ATEM 全国大会

開催日: 2019年10月19日(土)

場所: 京都女子大学

■特別シンポジウム

Teaching Communication through Visual Media

Craig Smith (Kyoto University of Foreign Studies)

Naoko Fujikura (Kyoto University of Foreign Studies)

Michael Barr (Kyoto University of Foreign Studies)



左から Barr 先生、Smith 先生、藤倉先生

本シンポジウムでは、スピルバーグ監督による今年の話作 *The Post* (邦題：『ペンタゴン・ペーパーズ』) (2017)を用いた授業実践ならびに研究が紹介された。本作品は、1970年代、泥沼化するベトナム戦争の実情を記した機密文書「ペンタゴン・ペーパーズ」をスクープしようとするマスメディアと、それを封じ込めようとする連邦政府との攻防を描いている。政府の圧力に対して、社運を賭けてスクープに踏み切るキャサリンは、ワシントンポストの発行人で、しかも女性である。ジェンダー、法の正義、報道の自由という、今日的にも重要な意味をもつテーマに切り込んだこの作品は、批判的思考能力を育成する大学教養レベルの英語教育の題材として適切である。発表では先ず Barr 先生がこの映画を教材として使う意義や歴史的背景、コンテキストの重要性などについて語られ、次に藤倉先生がジェンダー論の観点から、主人公をとりまくコミュニケーションに観られる差別を分析され、最後に Smith 先生が現在のトランプ政権を引き合いに出して、メディアと政治の関係について考察を述べられた。(井村 誠)



■表彰式・総会

今年の総会では、まず第7回ATEM 優秀論文賞の授賞式が行われ、山口篤美先生(名城大学)に賞状が授与された。次に倉田誠会長より任期満了の挨拶と後任の横山仁視新会長の紹介が行われ、横山新会長からは専務理事、支部代表理事が発表された。引き続き、第24期決算報告(P8参照)が行われ承認された。最後に、横山新会長が再度登壇され、新たな方針と抱負を述べられた。

司会の巳波先生



(巳波 義典)

●受賞のことば

<優秀論文賞>

Towards Successful Multimedia Learning: Cases of Self-directed EFL Learners

山口 篤美(名城大学)

この度はこのような素晴らしい賞をいただき、大変光栄に感じております。査読して下さった先生方には大変貴重なご助言をいただき、感謝お礼申し上げます。

この論文は、私が当時勤務していた Self-access Learning Center で学生に提供する映画選定を行っていたとき、「どの映画教材が学生の英語習得により適切か」という疑問からインスパイアされました。調査を進めるうちに、数多くの EFL 学生が、マルチメディア教材の強力な有効性に、自分自身の体験から気づいていることを実感しました。この研究で最も興味深かった発見は、研究協力者全員が、(恐らく直観的に)マルチメディア教材学習が定型的言語 (Formulaic Sequence: FS) 習得に効果的だと報告したことです。FS は言語を効率的に使用するために有効だと近年注目を集めているので (Geluso and Yamaguchi 2014 参照)、今後はこの受賞を励みとし、マルチメディアを用いた FS 学習の可能性を模索していきたいと考えております。



■シンポジウムA

Active Vocabulary Learning through Multimedia: For better understanding in real-life communicative settings



衛藤先生

左から金田先生、Poon 先生

西日本支部では、金田直子先生（京都女子大学）、Ken Wing Poon 先生（フリーランス）、衛藤圭一先生（京都外国語大学）、吉川裕介先生（近畿大学）、横山仁視先生（京都女子大学）の5人が、それぞれの視点から TED talks の英語教育への応用の可能性を提言した。

金田先生と Poon 先生は、話し手の気持ちを聞き手（聴衆）に効果的に伝える手段として英語のオノマトペ（snap, click）を取り上げ、これらの語彙が具体的な場面・音声・ノンバーバルの側面が一体化して初めてその機能を持つことを示した。

衛藤先生と吉川先生は、法助動詞表現（be bound to, be allowed to）を取り上げ、談話に注目することで初級学習者でも用法を正確に理解できることを TCSE（TED Corpus Search Engine）を活用した TED talks の具体例を提示し論じた。横山先生は、映像が持つ力とともに文体・語彙に工夫が凝らされている例として -ly 副詞（float effortlessly, famously come together など）を取り上げ、動きを表す動詞と共起した際の翻訳の難しさについて、授業での事例を紹介した。（西日本支部企画）

■シンポジウムB

Changing from Teaching English through Movies to Teaching through Multimedia: Shifting from top-down approaches to class design to bottom-up approaches

東日本支部が企画したシンポジウムでは、Ryan Spring 先生（東北大学）、清澤香先生（国際基督教大学）、鈴木政浩先生（武蔵文理大学）が映像メディアを取り入れた授業デザインに関する発表をし、来場した会員と活発に議論をした。Spring 先生は、ATEM が「映画英語教育学会」から「映像メディア英語教育学会」と名称変更したことに合わせ、会員の授業デザインの変更が必要であり、そこから新たな可能性も生まれると主張。この視点に立ち、Spring 先生、清澤先生、鈴木先生がそれぞれ様々な新しいテクノロジー（スカイプ、吹き替えソフトなど）や映像メディアの使い方（発音の指導、ディスカッショントピックの提供など）を紹介した。本支部のシンポジウムは発表のみならず、来場した会員に QR コードを配布、Google Forms を利用してアンケートに答えていただき、リアルタイムでその結果について話し合った。（東日本支部企画）

■シンポジウムC

医療英語教育における映像メディアの活用—新たな可能性を探る



左から北間先生、足利先生、松田先生、渡辺先生、北海道支部長・小林先生

今大会では、第 22 回で支部企画発表した足利俊彦（北海道医療大学）、北間砂織（北海道大学・通訳者）、松田愛子（北海道大学研究員・通訳者）、渡辺まどか

(天使大学・通訳者)の各先生が、再び医療英語教育をテーマに発表した。足利先生は授業で使える医療系映像メディアの考察、北間先生は映画を交えた栄養指導上の異文化理解を深める授業と医療通訳音声翻訳アプリの紹介、松田先生は人気医療ドラマの字幕、吹替、対訳、原文の比較学習案の提示、渡辺先生は SNS メッセージ機能を用いた海外医療従事者との交流による会話・作文力を高める授業実践報告を行った。当日は6セッションが同時進行し参加者は少なめだったが、充実した質疑応答となり、その関心の高さを強く感じ取れた。外国人就労拡大や五輪開催と医療現場の国際化が加速する中、新会長のもと発足予定の SIG (Special Interest Group) 研究においてもイニシアチブを取れる内容といえよう。(北海道支部企画)

■シンポジウムD ディズニー映画音楽の魅力

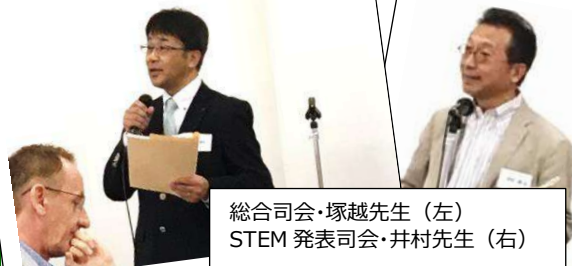
吉村圭先生(鹿児島女子短期大学)、石田もとな先生(吉備国際大学大学院)、村田希巳子先生(北九州市立大学)の3名が、ディズニー映画音楽の教育現場での活用について発表した。吉村先生は、英文学講義における映画 *The Lion King*(1994)の劇中歌“Hakuna Matata”の活用について発表を行い、そこに見られる William Shakespeare の影響について解説した。石田先生は、映画 *Aladdin*(1992)の挿入歌“A Whole New World”の英語教育での活用について発表した。学生が行った歌詞の日本語訳が活動を通して変化した点など、教室での活発な活動の様子がうかがえる発表となった。村田先生は、映画 *Frozen*(2013)のヒット曲“Let It Go!”に関する考察を行った。物語のベースとなった Hans C. Andersen の“The Snow Queen”への言及や、歌詞の原文と日本語版の比較など、様々な角度から同映画・楽曲の魅力に迫る発表となった。(九州支部企画)



左から村田先生、九州支部長・吉村先生、石田先生

会場スナップ

開会式：左から京都外国語大学長・松田先生、前会長・倉田先生、STEM 会長・Pyun 先生、ICEM 会長・Gerber 先生



総合司会・塚越先生(左)
STEM 発表司会・井村先生(右)

総会での理事紹介



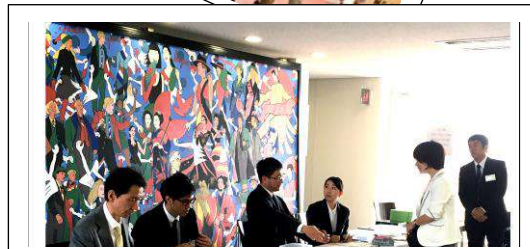
ポスターセッションの田淵先生



STEM 創設者・リー先生と ATEM 新会長・横山先生



懇親会を盛り上げてくれた
京都外国語大学ダンス部



大会会場受付
お世話になりました。

■研究発表一覧

第24回全国大会の研究発表は下記のとおりである。タイトルの表記言語は発表での使用言語を指す。発表者の敬称は略する。
 //

【Session 1】

海外ドラマ『グリーン』を活用した4技能統合型授業の実践 — どこまでやればアクティブラーニングと言えるのか？

角山 照彦 (広島国際大学)

will のレトリック

松本 知子 (長崎国際大学) 平野 順也 (熊本大学)

アメリカ英語における uptalk

渡邊 信 (麗澤大学)

談話中の FTA を和らげる発話行為「褒める」について — 映像英語を通じた語用論見地からの考察

鈴木 光代 (東京女子医科大学) 越智 希美子 (松山大学)

An Error Analysis of Korean-English Subtitles in the Korean Drama “That Winter, The Wind Blows”

KOH Sungran (Kookmin University)

Increasing Listening and Speaking Skills through Skype: The results of 3 years of data

SPRING Ryan (Tohoku University)

【Session 2】

映画教材“*Our Time, Our Lives, Our Movies*”を使用した映画と文化・社会との相互的な影響を考察させる授業実践の試み

森永 弘司 (同志社大学)

アカデミックレクチャー動画を用いた英語での授業実践報告

松田 早恵 (摂南大学)

学生のシャイネスを軽減させる試み — 音楽メディアを用いて —

北岡 一弘 (大阪市立大学)

サイコホラーとして解釈する川端康成の『美しさと哀しみと』

清水 純子 (慶應義塾大学)

Suggestions for Listening Activities Using Animation Movies for Active and Lively Classrooms

RHO Yoon-Ah (Kookmin University)

Finnish Education Digital textbook and teacher beliefs

YOSHIMUTA Satomi (International Christian University)

【Session 3】

自律的英語学習を促進させる 3M (Music / Movie / Media) を活用した授業の実践

小林 敏彦 (小樽商科大学)

映像メディア活用のための学習方略使用とその効果に対する学習者の認識に関する研究

鈴木 政浩 (西武文理大学)

映画の台詞利用による語句の多義認識についての認知的考察 — (a) part of ~ を基に —

松中 完二 (久留米工業大学)

「英文読解」と「映像メディア」の相乗効果を目指した授業づくり

呉 春美 (神奈川大学)

Explicit and Implicit Learning of Formulaic Sequences through Disney Animation

KIM Hye Jeong (Kookmin University)

Adapting Film Adaptations for the Classroom

PRONKO Michael (Meiji Gakuin University)

【Session 4】

映画と文化データベース所収: 映画『古都』の一試考 — 古都の意味作用とコミュニケーションの《結び目》について —

塚田 三千代 (映画分析家・翻訳家)

洋画教材は実践的コミュニケーション能力を高めることができるか — 高等学校コミュニケーション英語 I の教科書を中心に —

岩本 昌明 (富山県立上市高等学校)

映像を解説する際の英語表現

吉田 雅之 (早稲田大学)

映画映像対訳コーパスによる語彙習得

田淵 龍二 (ミント音声教育研究所)

Using graphic Novels in the Classroom: Improving the pleasure of reading

LEE Ji-Hyun (Kookmin University)

Deception: A Communicative Strategy to Create Reality

IMURA Makoto (Osaka Institute of Technology)

FIGONI William (Kindai University)

【Session 5】

The Effects of Explicit vs. Implicit Vocabulary Activities through Movies on Vocabulary Learning

LEE Eun Hye (Pukyong National University)

PARK Mae-Ran (Pukyong National University)

Orientalism, Stereotypes and Fallacies: A cross-cultural comparison of the martial arts films of Hollywood and Japan through a CLIL pedagogical approach

KAVANAGH Barry (Tohoku University)

【Session 6】

Great Negotiation Scenes: Teaching Negotiation through Film and Television

KLAPHAKE Jay (Kyoto University of Foreign Studies)

Smart Phones and Internet in the Classroom: the New Normal

BARR Michael (Kyoto University of Foreign Studies)

【Session 7】

グローバル化に対応した TOEIC L&R テストの指導について
 菘 寛美、SMITH Eleanor、福井 美奈子、伊藤 美絵 (以上、京都産業大学)、倉田 誠 (京都外国語大学)

映画『マイ・インターン』で学ぶ就職に関する英語表現と自己PR 動画作成

塩見 佳代子 (立命館大学)

【ポスターセッション】

名セリフと物語展開と俳優コーパス — 君の瞳に乾杯、おうちが一番など —

田淵 龍二 (ミント音声教育研究所)

Curation of Online Videos for English Learners

NAKAMURA Sachiko (Chuo Gakuin University)

GO Harumi (Kanagawa University)

SPRING Ryan (Tohoku University)

■支部だより

【北海道支部】

◆ここ数年支部長のみの参加だった STEM 大会には今回、8名の支部会員が参加。うち5名が研究発表し、いずれもよい感触を得ました。

◆第24回全国大会では、支部長の小林の研究発表と、足利、北間、松田、渡辺の4氏による医療英語教育についての支部企画シンポジウム発表(詳細4-5頁)がありました。

◆2019年1月26日(土)18-20時、全国大会支部企画を基とした医療英語教育ワークショップを札幌駅前の小樽商科大学サテライトで開催します。ぜひご来場ください。

(支部長:小林 敏彦)

【東日本支部】

◆東日本支部では、夏季例会を開催しました(2018年6月24日(日)13:30~17:50、麗澤大学東京研究センター)。今回は6件の研究発表・授業実践報告があり活発に意見交換が行われました。発表いただいた先生方のお名前を記します: Mr. Keita Yagi (International Christian Univ.)、塚田三千代氏(翻訳家・映画分析家)、中村佐知子先生(中央学院大学)、石井英津子先生(東京女子医科大学、共立女子大学)、濱中啓子先生(東京都立両国高等学校・附属中学校)、Dr. Barry Kavanagh (Tohoku Univ.)。

(支部長:渡邊 信)

【中部支部】

◆本年度の支部大会を2018年9月8日(土)に金城学院大学サテライトで開催しました。大会テーマは「映像メディアの授業での活用」で、藤枝善之先生(本部大会実行委員長、京都外国語大学・短期大学)、飯田泰弘先生(西日本支部広報委員、岐阜大学)他にご発表いただきました。

◆今年度に入り、大会運営委員が子安恵子先生、国際交流委員が林雅則先生へとバトンタッチいたしました。

◆STEM大会に支部会員のMatthew Love氏が参加し、研究発表を行いました。(支部長:杉浦 恵美子)

【西日本支部】

◆「第16回西日本支部大会」を2019年3月2日(土)に京都女子大学で開催します。<企画ワークショップ>

「Authenticating In-class Activities Using Multi-media」井村誠先生(大阪工業大学)、William Figoni先生(近畿大学)、松田早恵先生(摂南大学)<シンポジウム>「ノンフィクション素材の活用法」(1)ドキュメンタリーを使って養う批判的思考力/玉井史絵先生(同志社大学)、(2)ドキュメンタリーの日本語字幕作成を通して学ぶ複数の視点と文化翻訳/斎藤安以子先生(摂南大学)<特別講演>「マルチメディアと英語教育:ラジオ生放送現場から見たメディアの変遷と今後の英語教育の可能性」佐藤弘樹先生(a-Station FM Kyoto パーソナリティ、ATEM 特別顧問)<支部交流枠発表>南部みゆき先生(宮崎大学)、松中完二先生(久留米工業大学)、その他一般発表と賛助会員発表あり。詳細はHPをご覧ください。(支部長:横山 仁視)

【九州支部】

◆2018年8月25日(土)に北九州市立大学にて九州支部研究大会を行いました。今回は記念すべき20回目の大会でした。6件の研究発表があり、英語教育はもちろん、文化論、文学、言語学など多様なジャンルのご発表がありました。「映像メディア英語教育学会」へと改称された年にふさわしい大会になったように思います。2019年も充実した大会を開催したいと思います。ぜひご発表・ご参加をよろしくお願いいたします。(支部長:吉村 圭)

■委員会だより

【ジャーナル編集】

◆編集委員長を拝命しました足利俊彦と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。今回、編集委員には塚越博史、北間砂織、スプリング・ライアン、杉浦恵美子、井村誠、村田希巳子の各先生にご就任いただきました。

◆第24号に多くの論文をご投稿いただき誠にありがとうございました。今回より各論文を3名の査読委員が審査することとなりました。多くの査読委員の先生方にはお忙しいところご協力いただき御礼申し上げます。

(委員長:足利 俊彦)

【国際交流】

◆姉妹学会STEMの新会長にJung, Han-ki先生(Korea Army Academy at Youngcheon)が就任されました。

◆第22回STEM国際大会(TEEM 2018)は、KASEE(Korean Association of Secondary English Education)、Seoul SETA(Secundary English Teachers' Association)との共催で、9月14日(金)~16日(日)の期間、ソウル市内の建国大学校(Konkuk University)にて開催されました。ATEMからは全国各支部から総勢26名が参加して13件の研究発表が行われ、プレナリーでは西日本支部の金田直子先生と、STEMのLee Ji-Hyn先生の共同発表が行われました。また今回は台風21号による関空閉鎖や北海道地震による影響にもかかわらず、多数の参加があったことに対してSTEMから熱い感謝の言葉をいただきました。

◆第24回全国大会には、STEMから総勢20名の先生方が参加され、Kevin Were先生の特別発表を含めて7件の発表がありました。また関連学会のICEM(International Council for Educational Media)からもHanna Gerber会長が参加され、祝辞をいただきました。(委員長:井村 誠)

【大会運営】

◆2018年度の第24回大会が京都外国語大学で開催され、130名の参加者を得て、盛況のうちに終了しました。各会員のご協力に感謝申し上げます。2019年度の大会は、10月19日(土)京都女子大学で開催することになりました。

(委員長:藤枝 善之)

【会員管理】

◆会員管理委員会では2018年10月27日をもって新田晴彦(専修大学)が委員長から委員へ移動し、そして新たな委員長として嘉来純一(早稲田大学本庄高等学院)が就任致しました。今後とも円滑な業務が遂行されるよう一層の努力を重ねていく所存ですのでよろしくお願い致します。STEMジャーナル応募、STEM大会参加の申し込みが会員システムの中から行えるようになりました。ご検討の方はぜひご利用下さい。(委員長:新田 晴彦)

【ICT】

◆委員に松田愛子先生が加わりました。本部ウェブサイトでの全面的な刷新から半年以上の時間が経過し、会員の皆様にはご利用いただいていることと存じます。不備や改善を要する点など、お気づきのことがございましたらご指摘いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

(委員長:巳波 義典)

【広報】

◆松田愛子先生より、委員長を引き継ぎました。充実したNL作成に努めます。(委員長:秋好 礼子)

■決算報告


第24期 映画英語教育学会【決算報告書】

2017年4月1日～2018年3月31日

収入の部			支出の部		
前年度繰越		889,405	大会開催費	大会開催総費用	336,650
会員年会費	2014年度分@5,000 1	5,000	紀要発行費	紀要印刷費(抜刷り含む)	610,172
	2015年度分@5,000 10	50,000	ニューズレター発行費	ニューズレター印刷費	159,840
	2016年度分@5,000 22	110,000	ホームページ維持費	サーバーレンタル代	6,171
	2017年度分@5,000 276	1,380,000	研究活動費	支部活動助成	250,000
	2018年度分@5,000 23	115,000	事務用品費	備品・封筒作成・資料代他	8,568
賛助会費	2017年度分@10,000 13	130,000	通信費	電話代・郵送料・切手代他	307,547
	2018年度分@10,000 1	10,000	諸会費	言語系学会 年会費	10,000
大会参加費	会員@2,000(事前@1,000) 75	87,000	会議・遠隔地補助	理事会開催遠隔地旅費補助 他	518,424
	非会員@3,000(事前@2,000) 17	43,000	消耗品費	会計ソフト等	17,760
大会懇親会費	@5,000 61	305,000	懇親会費	懇親会支出額	405,000
書籍売上	CiNii・紀要・著作権ハンドブック	124,155	雑費	振込料他	8,940
その他売上	TOEICセミナー	1,000	未払金支払		75,600
受取利息		3			
書籍送料		320			
小計		3,249,883	小計		2,714,672
				みずほ銀行	171,557
				郵便振替口座	287,380
				小口現金	29,203
				仮払金	47,071
				翌年度繰越金	535,211
合計		3,249,883	合計		3,249,883

※個人会員 369名・賛助会員 13社

2018年5月吉日 上記の通り相違ありません

会計監査 秋月 ATEM
Clapper Board

第24回全国大会へご出展いただいた賛助会員は下記の皆様です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。(50音順)

記

朝日出版社 桐原書店 金星堂

コスモピア 松柏社 成美堂

(事務局)

～編集後記～

◇お忙しい中、本号作成に様々な形でご協力くださいました皆様に、心よりお礼申し上げます。

◇動画の管理は ICT 委員会にて行うことになりました。

◇次号は2019年5月頃に発行予定です。

◇今回は九州支部長の吉村先生に全国大会の写真を多数提供いただきました。

<賛助会員一覧> 2018/11/30 現在(50音順)

- ★株式会社朝日出版社
- ★株式会社英宝堂
- ★株式会社桐原書店
- ★株式会社金星堂
- ★国際トラベル京都
- ★一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
- ★コスモピア株式会社
- ★株式会社松柏社
- ★株式会社成美堂
- ★センゲージラーニング株式会社
- ★チエル株式会社
- ★株式会社トライアログ・エデュケーション
- ★ピアソン・ジャパン株式会社
- ★広島工業大学学務部 MM 準備室

[広報委員会] 2018.10.27 現在

委員長：秋好礼子 (九州)

委員：田口雅子 (北海道) 杉浦綾子 (東日本)

井土康仁 (中部) 衛藤圭一 (西日本)

石田もとな (九州)

[編集協力] 松田愛子 (前広報委員長、北海道)